

# 令和7年度前期 情報検定

<実施 令和7年6月15日（日）>

## 2 級

（説明時間 11：05～11：15）

（試験時間 11：15～12：15）

- ・試験問題は試験開始の合図があるまで開かないでください。
- ・解答用紙（マークシート）への必要事項の記入は、試験開始の合図と同時に行いますので、それまで伏せておいてください。
- ・試験開始の合図の後、次のページを開いてください。＜受験上の注意＞が記載されています。必ず目を通してから解答を始めてください。
- ・試験問題は、すべてマークシート方式です。正解と思われるものを1つ選び、解答欄の○をHBの黒鉛筆でぬりつぶしてください。2つ以上ぬりつぶすと、不正解になります。
- ・辞書、参考書類の使用および筆記用具の貸し借りは一切禁止です。
- ・電卓の使用が認められます。ただし、下記の機種については使用が認められません。

### <使用を認めない電卓>

1. 電池式（太陽電池を含む）以外の電卓
2. 文字表示領域が複数行ある電卓（計算状態表示の一行は含まない）
3. プログラムを組み込む機能がある電卓
4. 電卓が主たる機能ではないもの
  - \* パソコン（電子メール専用機等を含む）、携帯電話、スマートフォン、タブレット、電子手帳、電子メモ、電子辞書、翻訳機能付き電卓、音声応答のある電卓、電卓付き腕時計、時計型ウェアラブル端末等
5. その他試験監督者が不適切と認めるもの

## ＜受験上の注意＞

1. この試験問題は19ページあります。ページ数を確認してください。  
乱丁等がある場合は、手をあげて試験監督者に合図してください。  
※問題を読みやすくするために空白ページを設けている場合があります。
2. 解答用紙（マークシート）に、受験者氏名・受験番号を記入し、受験番号下欄の数字をぬりつぶしてください。正しく記入されていない場合は、採点されませんので十分注意してください。
3. 試験問題についての質問には、一切答えられません。自分で判断して解答してください。
4. 試験中の筆記用具の貸し借りは一切禁止します。筆記用具が破損等により使用不能となった場合は、手をあげて試験監督者に合図してください。
5. 試験を開始してから30分以内は途中退出できません。30分経過後退出する場合は、もう一度、受験番号・マーク・氏名が記載されているか確認して退出してください。なお、試験終了5分前の合図以降は退出できません。試験問題は各自お持ち帰りください。
6. 試験後の合否結果（合否通知）、および合格者への「合格証・認定証」はすべて、Web認証で行います。
  - ①情報検定（J検）Webサイト合否結果検索ページ及びモバイル合否検索サイト上で、デジタル「合否通知」、デジタル「合格証・認定証」が交付されます。
  - ②団体宛には合否結果一覧ほか、試験結果資料一式を送付します。
  - ③合否等の結果についての電話・手紙等でのお問い合わせには、一切応じられませんので、ご了承ください。

問題 1 次の経営分析と経営戦略に関する記述を読み、各設問に答えよ。

企業活動は、経営戦略にもとづき行われる。企業が経営戦略を策定するためには、企業自身や自社を取り巻く環境などの分析を行うことは欠かせない。

<設問 1> 次の経営戦略の策定に関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

他社にない企業独自のノウハウや技術などに経営資源を集中し、競争優位を確立する経営手法にコアコンピタンス経営がある。コアコンピタンスを活かして市場での競争優位を確立し競争相手との□□□□(1)を図ることを、コアコンピタンスによる□□□□(1)戦略と呼ぶ。そのため、どのノウハウや技術に経営資源を集中すべきか、強化すべきかを判断するために□□□□(2)や□□□□(3)、□□□□(4)などを活用して分析する。

□□□□(2)は、財務、顧客、業務プロセス、成長と学習という4つの視点から評価を行う手法である。それにより、企業の将来、現在、過去の活動が適正かどうかを判断し、ステークホルダーとビジョンを共有した戦略を立てる。

□□□□(3)は、外部環境分析により、市場における機会を探り、自社にとっての脅威を見つけ出すとともに、内部環境分析により、自社の強みと弱みを把握する手法である。なお、コアコンピタンスは自社の強みになる。

□□□□(4)は、企業の活動を主活動と支援活動に分け、それぞれがどのように付加価値を提供しているかを分析する。これにより、自社のコアコンピタンスがどの部分で顧客に価値を生み出しているかを特定し、戦略の方向性を見出すことができる。

(1) の解答群

- ア. 差別化
- ウ. 多角化

- イ. 垂直統合化
- エ. 連携強化

(2) ～ (4) の解答群

- ア. BSC
- ウ. SWOT 分析
- オ. ベンチマーキング

- イ. PPM
- エ. バリューチェーン分析

＜設問 2＞ 次の経営戦略に関する記述と関連の深い字句を解答群から選べ。

(5) 大企業が狙わない小規模な市場や特定の顧客層に焦点を当て、比較的小規模なマーケットで独自の地位を確立する戦略である。

(6) 大規模になりうる未開拓の市場や需要を見つけ出し、独自の価値を提供して収益性と成長を実現する戦略である。

(5) , (6) の解答群

ア. コストリーダーシップ戦略

イ. ニッチ戦略

ウ. ブルーオーシャン戦略

エ. レッドオーシャン戦略

問題2 次のプロジェクト管理に関する記述を読み、各設問に答えよ。

プロジェクトの作業の関連性や日程管理は、PERT (Program Evaluation and Review Technique) という手法を用いる。PERTを利用することで、プロジェクトが効率よく実行できるように作業順序や時間配分を計画したり、プロジェクトの進行状況を管理したりできる。PERTではアローダイアグラムが用いられる。

アローダイアグラムでは、作業を矢印で表し、矢印上の英字は作業名、()内の数字はその作業の所要日数を表している。また、丸数字はノードであり、作業の開始点または完了点を表している。各ノードから出ている矢印の作業は、ノードに入る矢印の作業をすべて終了しないと開始できない。矢印が破線の場合ダミー作業を表し、所要日数は0日だが、次の作業の前に行わなければならない作業を表している。

表1は今回のプロジェクトに必要な作業の一覧である。表1を基にアローダイアグラムを作成することにした。図1は、作成途中のアローダイアグラムである。

表1 作業表

作業名	所要日数	先行作業
A	2	なし
B	8	A
C	3	A
D	7	A
E	2	D
F	7	D
G	3	B, C, E
H	6	B, C, E
I	2	G
J	2	F, H, I

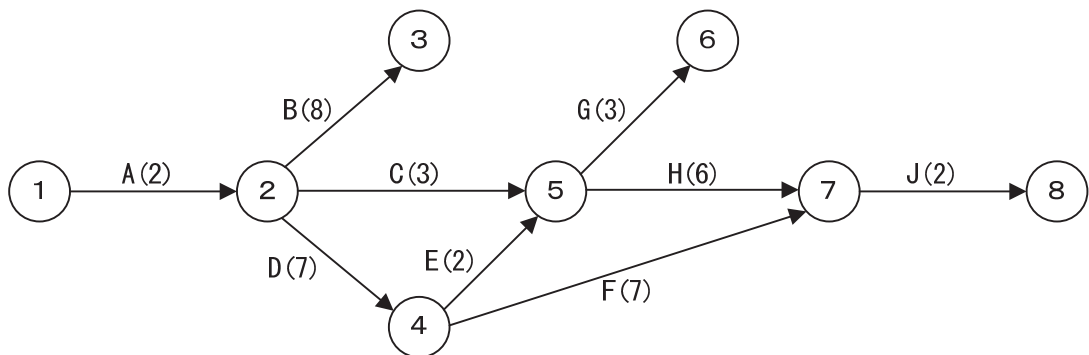


図1 作成途中のアローダイアグラム

＜設問 1＞ 次の図 1 のアローダイアグラムに関する記述中の [ ] に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

図 1 の作成途中のアローダイアグラムに不足しているのは、ノード [ (1) ] へのダミー作業を表す破線と、ノード [ (2) ] への作業 I を表す矢印である。

一連の作業の最短所要時間を計算すると、 [ (3) ] 日となり、余裕のない作業の組み合わせ(経路)を表すクリティカルパスは [ (4) ] となる。

(1) , (2) の解答群

ア. ③から⑤      イ. ③から⑥      ウ. ⑥から⑦      エ. ⑥から⑧

(3) の解答群

ア. 13      イ. 16      ウ. 18      エ. 19

(4) の解答群

ア.  $A \rightarrow B \rightarrow G \rightarrow J$       イ.  $A \rightarrow B \rightarrow H \rightarrow J$   
 ウ.  $A \rightarrow C \rightarrow H \rightarrow J$       エ.  $A \rightarrow D \rightarrow E \rightarrow H \rightarrow J$   
 オ.  $A \rightarrow D \rightarrow F \rightarrow J$

＜設問 2＞ 次の作業工程に関する記述中の [ ] に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

ある開発プロジェクトは 10 ヶ月で完成予定である。プロジェクト開始時点での投入人数及び各作業終了時点での進捗計画は表の通りである。ところが、6 ヶ月経過した時点での進捗が計画ではソフトウェア詳細設計作業が終了する 60%に対して 50%であった。今後も同じ生産性が続くと想定した場合、プロジェクトを完了するためには [ (5) ] ヶ月の工期の延長が必要になる。また、追加要員の生産性は既存要員と同じとした場合、このプロジェクトを計画通り完了するためには、今後 [ (6) ] 名の追加要員が必要となる。

表 2 投入人数及び各作業終了時点での進捗率表

項目	投入人数	進捗(作業終了時点)					
		要求定義	システム方式設計	ソフトウェア方式設計	ソフトウェア詳細設計	プログラミング	テスト
計画	10 名	10%	25%	40%	60%	90%	100%

(5) , (6) の解答群

ア. 2      イ. 3      ウ. 4      エ. 5      オ. 6

**問題3 次のコード設計に関する記述を読み、各設問に答えよ。**

日常生活で使われているコードは、個々のデータを区別し管理しやすくする役割を持っている。コードを設計する場合は、項目の性質により管理しやすいコードの種類を選択し設計する必要がある。

＜設問1＞ 次のコードの割り当てに関する記述を読み、関係の深い字句を解答群から選べ。

- (1) チェーン店の店舗コードを、開店順に連番で割り当てた。
- (2) 商品コードを、液晶テレビに TV-A32、録画機に RD-P25 のように商品名の一部を記号化して割り当てた。
- (3) マラソンレースのゼッケンを、海外招待選手 10 名に 1～10、国内招待選手 20 名に 31～50、一般参加選手 200 名に 101～300 を割り当てた。
- (4) 図書コードを、最初の桁を情報工学や経営学など、続く桁をハードウェアやソフトウェアなど、最上位の桁から大分類、中分類、小分類というように階層的に割り当てた。

**(1) ～ (4) の解答群**

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| ア. 区分コード | イ. 桁別コード | ウ. 順番コード |
| エ. バーコード | オ. 表意コード | カ. 文字コード |

＜設問2＞ 次のチェックディジットに関する記述中の   に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

コードから一定のアルゴリズムによって算出された数値をチェックディジットと呼び、コードの末尾に付与されることが多く、バーコードの末尾にも付与されている。いくつかのアルゴリズムが示されているが、ここでは次のアルゴリズムにより数字7桁で構成されるコードに対してチェックディジットを求める。

## 【チェックディジットのアルゴリズム】

(手順)

[Ⅰ] 図のように、コードの右端を1桁目(①)とし、順に左へ向かい2桁目(②)～7桁目(⑦)とする。

コード： 2 9 4 8 3 5 6  
          ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑  
          ⑦ ⑥ ⑤ ④ ③ ② ①

図 コードの例

[Ⅱ] 奇数位置の桁の合計(①+③+⑤+⑦)を求める。

[Ⅲ] [Ⅱ]の合計値を3倍する。

[Ⅳ] 偶数位置の桁の合計(②+④+⑥)を求める。

[Ⅴ] 上記[Ⅲ]と[Ⅳ]の合計を求める。

[Ⅵ] [Ⅴ]の合計値の下1桁の値を10から引いた値をチェックディジットとする。ただし、下1桁の値が0の場合はそのまま0をチェックディジットとする。

図のコード「2 9 4 8 3 5 6」の場合、チェックディジットを求めると (5) になる。

次にコード「2 9 1 8 3 5 6」の場合、チェックディジットを求めると (6) になる。このようにコードが一文字でも異なるとチェックディジットも異なるので、チェックディジットが付与されたコードのコード部分から算出された数値と、末尾のチェックディジットを比較することで入力ミスを発見できる。

### (5) , (6) の解答群

ア. 0	イ. 1	ウ. 2	エ. 3	オ. 4
カ. 5	キ. 6	ク. 7	ケ. 8	コ. 9



問題4 成績評価に関する次の記述を読み、各設問に答えよ。

J 学校では定期試験や課題評価によって成績を決めており、以下の方法で成績を評価している。

[成績評価に用いる項目]

- ・ 中間試験 (100 点満点)
- ・ 期末試験 (100 点満点)
- ・ 課題評価 (3 段階 A 評価, B 評価, C 評価)
- ・ 成績は A, B, C, D, E の 5 段階評価とし, D と E は不可とする

[成績評価の方法について]

成績評価は下記の方法によって決定する。

- ・ 中間試験と期末試験がともに 70 点以上で課題評価が A の場合は成績を A とする。
- ・ 中間試験と期末試験がともに 70 点以上で課題評価が B または C の場合は成績を B とする。
- ・ 中間試験と期末試験がともに 70 点未満で課題評価が A または B の場合は成績を D とする。
- ・ 中間試験が 70 点未満で期末試験が 70 点以上, 課題評価が A の場合は成績を C とする。
- ・ 中間試験が 70 点未満で期末試験が 70 点以上, 課題評価が B または C の場合は成績を D とする。
- ・ 中間試験が 70 点以上, 期末試験が 70 点未満, 課題評価が A または B の場合は成績を D とする。
- ・ 中間試験と期末試験がともに 70 点未満で課題評価が C の場合は成績を E とする。

この問題では、これ以外のパターンは考えないものとする。

<設問 1> 次の成績評価を求めるデシジョンテーブル中の   に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。なお、同じ選択肢を繰り返し使用してもよい。

表 成績評価に関するデシジョンテーブル

中間試験：70 以上	Y	Y	(1)	Y	Y	(2)	N	N
期末試験：70 以上	Y	Y		N	N		Y	N
課題評価 A	Y	N		Y	N		N	N
課題評価 B	N	Y		N	Y		Y	N
課題評価 C	N	N		N	N		N	Y
成績 A	X	(3)	—	—	(4)	—	(5)	—
成績 B	—		X	—		—		—
成績 C	—		—	—		X		—
成績 D	—		—	X		—		—
成績 E	—		—	—		—		X

(1) , (2) の解答群

ア.

N
N
N
N
Y

イ.

N
Y
Y
N
N

ウ.

Y
N
N
N
Y

エ.

Y
Y
N
N
Y

(3) ~ (5) の解答群

ア.

X
—
—
—
—

イ.

—
X
—
—
—

ウ.

—
—
X
—
—

エ.

—
—
—
X
—

＜設問 2＞ 次の成績評価を求めるデシジョンテーブルに関する記述を読み、に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

例えば中間試験が 70 点以上で期末試験が 70 点未満，課題評価が A の場合は成績が (6) となるが，期末試験も 70 点以上になった場合，成績は (7) となる。

(6) ～ (7) の解答群

ア. A

イ. B

ウ. C

エ. D

問題5 次のパソコン関連機器に関する記述を読み、各設問に答えよ。

コンピュータシステムは、様々な機器で構成されている。これらの機器を接続するための規格がインタフェースである。機器や接続方法により様々なインタフェースが用意されている。

＜設問1＞ 次の近距離無線通信に関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

□□□□(1)は、電波を利用した近距離の無線インタフェースである。伝送する装置間に障害物があっても、データ伝送が可能である。携帯電話同士など最大10m以内の近距離装置間のデータ交換に利用する。

□□□□(2)は、バーコードの代わりとして利用することを目的に、IDなど様々な情報を埋め込んだICタグから、無線通信によって情報をやり取りする技術である。バーコードに比べ汚れに強く、包装された中であっても読み取ることができるので、このタグを商品に付けることで商品管理・流通管理が容易になる。

□□□□(3)は、非接触ICチップを使って、かざすだけで通信できる国際標準規格である。機器同士を近づけるだけでデータ通信を行えるのが特徴で、スマートフォン、交通系ICカード、クレジットカードでキャッシュレス決済に利用されている技術である。

(1) , (2) の解答群

ア. Bluetooth    イ. IrDA    ウ. QRコード    エ. RFID

(3) の解答群

ア. NFC    イ. Wi-Fi    ウ. WPA3

＜設問2＞ 次のインタフェースに関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

コンピュータとディスプレイ装置を接続するインタフェースは、当初コンピュータの画像情報と音声情報は別のケーブルを使いアナログ信号に変換して接続していた。その後、コンピュータの画像情報に加えて、音声情報や制御信号もデジタル信号のまま一本のケーブルで接続できるインタフェースとして□□□□(4)を規格化した。

また、内蔵式のハードディスクを接続する規格の拡張仕様の一つで、基になった仕様のパラレル伝送方式をシリアル伝送方式に変更することで、伝送速度の向上を図ったのが□□□□(5)である。

**(4) , (5) の解答群**

ア. ATA

イ. DVI

ウ. HDMI

エ. SATA

＜設問 3＞ 次のバーコードに関する記述に該当する関係の深い字句を解答群から選べ。

(6) スーパーマーケットや小売店の業務を効率化する目的で利用されている。どの事業者のどの商品かを表す世界共通コードである。

(7) 2次元バーコードの規格で、これまでのバーコードが横方向にしか情報を持たないのに対し、縦横に情報を持っているため数字だけでなく英字や漢字など格納でき情報量が多い。コードの三つの角には切り出しシンボルがあり、どの方向から読み取っても情報を正しく読み取ることができる。また、汚れや破損があってもある程度までは読み取ることができる。

**(6) , (7) の解答群**

ア. EAN コード

イ. ISBN

ウ. ITF コード

エ. QR コード

問題6 次のインターネットの利用に関する記述を読み、各設問に答えよ。

インターネットは非常に利便性が高い仕組みであり、業務用途だけではなく生活の隅々にインターネットを利用したサービスが展開されている。業務用途では、インターネットを通して提供される様々なリソースやサービスを利用することができるクラウドサービスが注目されている。クラウドサービスを利用形態で分類すると、業務で利用するアプリケーションを提供する SaaS(Software as a Service)、アプリケーション開発の環境を提供する PaaS(Platform as a Service)、ハードウェア等のインフラ環境を提供する IaaS(Infrastructure as a Service)、リモートデスクトップ環境を提供する DaaS(Desktop as a Service)などがある。

なお、インターネットには様々な脅威が存在し、様々な方法で脅威に対応している。例えば、インターネットで公開する Web サーバやメールサーバなどを(a)内部ネットワークから隔離された領域に設置する。インターネットからこの領域に配置されたサーバにアクセスできるが内部ネットワークには直接アクセスできないようにして外部からの攻撃に対応している。また、(b)Web アプリケーションをインターネットに公開している場合はアプリケーションの脆弱性を狙った攻撃に対応する必要がある。

＜設問1＞ 次のクラウドサービスの利用形態に関する記述に該当する分類を解答群から選べ。

- (1) PC にアプリケーションをインストールせずに、クラウド上のアプリケーションを利用して作業をする。アプリケーションの開発目的では利用しない。
- (2) アプリケーション開発に必要なリソースの提供を受けることで初期投資を抑え、OS やミドルウェアを自由に組み合わせて開発することができる。利用者は OS やミドルウェアの管理も行う。
- (3) アプリケーション開発に必要なリソースと OS、ミドルウェアの提供を受けることで初期投資を抑えて開発することができる。利用者は OS やミドルウェアの管理は行わない。
- (4) クラウド上で提供している Windows デスクトップ環境を MacOS から利用して Windows 専用のアプリケーションを実行することができる。

(1) ～ (4) の解答群

ア. DaaS                  イ. IaaS                  ウ. PaaS                  エ. SaaS

＜設問 2＞ 下線(a)の領域を何と呼ぶか、解答群から選べ。

(5) の解答群

ア. DDoS                      イ. DHCP                      ウ. DMZ                      エ. DNS

＜設問 3＞ 下線(a)の領域や内部ネットワークとインターネットの間に設置する仕組みは何か、解答群から選べ。

(6) の解答群

ア. スパム    イ. セッション  
ウ. ドメイン    エ. ファイアウォール

＜設問 4＞ 下線(a)の領域にプロキシサーバを設置して内部ネットワークとインターネット間のアクセスを経由させる場合がある。その理由として不適切な記述を解答群から選べ。

(7) の解答群

- ア. インターネットから内部ネットワークが完全に保護されるためセキュリティ対策費用を計上しなくても済む
- イ. インターネットへのアクセスログを集中して管理できるのでセキュリティの問題を早期に検出できる
- ウ. インターネットにアクセスした内容はプロキシサーバでキャッシュされるので内部ネットワークからのインターネットアクセスが高速化される
- エ. 内部ネットワークからインターネットへのアクセスを制限することができるため、不正なネットワーク利用を予防することができる

＜設問 5＞ 下線(b)の対策として有効な仕組みを解答群から選べ。

(8) の解答群

ア. IPsec(Security Architecture for Internet Protocol)  
イ. SSL(Secure Socket Layer)  
ウ. TLS(Transport Layer Security)  
エ. WAF(Web Application Firewall)

問題7 この問題で使用する表計算ソフトの仕様を読み、各設問に答えよ。

この問題で使用する表計算ソフトの仕様は下記のとおりである。

AVERAGEIF 関数

検索範囲の中から条件に一致するセルを検索し、平均範囲の中の対応するセルの平均値を返す。

書式：AVERAGEIF(検索範囲, 条件, 平均範囲)

IF 関数

条件が真のときに真の場合、偽のときに偽の場合の計算結果や値を返す。

書式：IF(条件, 真の場合, 偽の場合)

MONTH 関数

日付を表すシリアル値から月の値(1～12)を返す。

書式：MONTH(シリアル値)

ROUND DOWN 関数

指定した桁で値を切り捨てる。桁数が正の数であれば小数点以下、負の数であれば小数点以上の桁になる。例えば、1にすると小数点以下第2位以下の桁を切り捨てて小数点以下第1位までを表示し、-1にすると1の位以下の桁を切り捨てる。

書式：ROUND DOWN(値, 桁数)

SUMIF 関数

指定した検索範囲の中で、条件に一致するセルの範囲に対応するセルの値の合計値を返す。

書式：SUMIF(検索範囲, 条件, 合計範囲)

VLOOKUP 関数

検索範囲から検索値を探し、位置で指定した列の値を返す。位置は1から始まる相対的な値であり、検索範囲中に見つけた行の中で、左から何番目の列かを示す。なお、検索方法は0の場合は完全に一致する値を探し、1の場合は検索値以下の最大値を探す。ただし、1の場合の検索範囲は昇順に並べ替えておく必要がある。

書式：VLOOKUP(検索値, 検索範囲, 位置, 検索方法)

式

=に続いて計算式や関数などを入力する。

セル番地の絶対参照

セル番地に\$を付けることで、絶対番地（絶対参照）を表す。



#### 別シートの参照

ワークシート名に「!」を付けてセル位置を指定することにより、別のワークシートを参照できる。例：ワークシート名「集計」のセルA1を参照する場合は、「集計!A1」と記述する。

JストアはA地区に雑貨店を10店舗経営している。全ての店舗の販売情報は基幹システムにてリアルタイムで集計されており、このデータを利用して販売分析を行うことにした。必要なデータは、基幹システムからCSV形式でダウンロードし、表計算ソフトに取り込む。

#### [商品ワークシートについて]

	A	B
1	商品コード	分類コード
2	S001	B01
3	S002	B01
4	S003	B01
⋮	⋮	⋮
28	S406	B05
29	S407	B05
30	S408	B05

図1 「商品」ワークシート

扱っている商品の商品コードをA列に、分類コードをB列に2～30行まで入力した。

#### [分類ワークシートについて]

	A	B	C
1	分類コード	分類名	目標販売数
2	B01	加工食品	80,000
3	B02	衛生用品	85,000
4	B03	家電小物	85,000
5	B04	ファッション小物	115,000
6	B05	台所用品	150,000

図2 「分類」ワークシート

扱っている商品の分類に関する情報を格納した表である。分類コードをA列に、分類名をB列に、分類ごとの目標販売数をC列に2～6行まで入力した。

[データワークシートについて]

	A	B	C
1	日付	商品コード	販売数
2	2024/1/1	S001	28
3	2024/1/1	S002	51
4	2024/1/1	S003	64
⋮	⋮	⋮	⋮
9998	2024/12/31	S406	6
9999	2024/12/31	S407	24
10000	2024/12/31	S408	83

図3 「データ」ワークシート

1年間に販売した商品ごとの販売数を全店舗分集計したものである。販売した日付、商品コードごとに集計し、日付、商品コードの昇順に2～10000行に入力されている。なお、A列の日付は日付を表すシリアル値が格納されており“YYYY/MM/DD”の形式で表示している。また、1日の販売数が0の商品は含まれていない。

＜設問1＞ 次の「データ」ワークシートの拡張に関する記述中の  に入れるべき適切な字句を解答群から選べ

「データ」ワークシートを加工して、後の集計でキーとなる値をD列とE列に表示する。D列には分類コード、E列には販売月を表示する。

	A	B	C	D	E
1	日付	商品コード	販売数	分類コード	販売月
2	2024/1/1	S001	28	B01	1
3	2024/1/1	S002	51	B01	1
4	2024/1/1	S003	64	B01	1
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
9998	2024/12/31	S406	6	B05	12
9999	2024/12/31	S407	24	B05	12
10000	2024/12/31	S408	83	B05	12

図4 拡張した「データ」ワークシート

・D列は、B列の商品コードを基に「商品」ワークシートを検索して表示する。次の式をセルD2に入力し、セルD3～D10000に複写した。

=  (1)

・E列、はA列の日付を基に表示する。次の式をセルE2に入力し、セルE3～E10000に複写した。

= MONTH(A2)

(1) の解答群

- ア. VLOOKUP(B2, 商品!A\$2:A\$30, 1, 0)
- イ. VLOOKUP(B2, 商品!A\$2:A\$30, 2, 0)
- ウ. VLOOKUP(B2, 商品!A\$2:B\$30, 1, 0)
- エ. VLOOKUP(B2, 商品!A\$2:B\$30, 2, 0)

＜設問 2＞ 次の「月別販売数」ワークシートの作成に関する記述中の   に入れるべき適切な字句を解答群から選べ

図 4 の拡張した「データ」ワークシートを基に、月ごとの販売数の合計を集計する「月別販売数」ワークシートを作成する。なお、B 列はカンマ区切りの表示形式にしている。

	A	B
1	月	販売数合計
2	1	40,587
3	2	37,397
4	3	40,415
5	4	39,869
6	5	42,697
7	6	42,830
8	7	41,695
9	8	43,891
10	9	42,479
11	10	42,109
12	11	41,786
13	12	42,695

図 5 「月別販売数」ワークシート

- ・ 1 行目には列見出しを入力し、セル A2～A13 に 1 から 12 までの数値を入力した。
- ・ セル B2 に次の式を入力し、セル B3～B13 に複写した。  
= (2)

(2) の解答群

- ア. SUMIF(データ!C\$2:C\$10000, A2, データ!D\$2:D\$10000)
- イ. SUMIF(データ!C\$2:C\$10000, A2, データ!E\$2:E\$10000)
- ウ. SUMIF(データ!D\$2:D\$10000, A2, データ!C\$2:C\$10000)
- エ. SUMIF(データ!E\$2:E\$10000, A2, データ!C\$2:C\$10000)

＜設問 3＞ 次の「分類別集計」ワークシートの作成に関する記述中の□に入るべき適切な字句を解答群から選べ

図 2 の「分類」ワークシートと図 4 の拡張した「データ」ワークシートを基に、分類ごとに集計を行う「分類別集計」ワークシートを作成する。なお、C 列は桁区切りの表示形式、D 列は小数点以下第 1 位までの表示形式、E 列はパーセント形式で小数点以下第 1 位までを表示するようにしている。

	A	B	C	D	E	F
1	分類コード	分類名	販売数合計	販売数平均	達成率	判定
2	B01	加工食品	79,211	49.1	99.0%	△
3	B02	衛生用品	80,007	50.1	94.1%	×
4	B03	家電小物	96,802	50.1	113.8%	○
5	B04	ファッション小物	113,742	50.1	98.9%	△
6	B05	台所用品	128,688	49.6	85.7%	×

図 6 「分類別集計」ワークシート

- ・ 1 行目に列見出しを入力し、セル A2～B6 を「分類」ワークシートのセル A2～B6 から複写した。

- ・ C 列は、分類ごとの販売数合計を表示する。セル C2 に次の式を入力し、セル C3～C6 に複写した。

= □ (3)

- ・ D 列は、分類ごとの販売数平均を小数点以下第 1 位まで表示するように切り捨てて表示する。セル D2 に次の式を入力し、セル D3～D6 に複写した。

= ROUNDDOWN(□ (4), 1)

- ・ E 列は、「分類」ワークシートの目標販売数に対して、C 列の販売数合計が何パーセントかを小数点以下第 1 位まで表示するように切り捨てて計算する。セル E2 に次の式を入力し、セル E3～E6 に複写した。

= □ (5)

- ・ F 列は E 列の達成率が 95%未満なら“×”，105%以上ならば“○”，それ以外は“△”を表示する。セル F2 に次の式を入力し、セル F3～F6 に複写した。

= □ (6)

(3) の解答群

- ア. SUMIF(データ!B\$2:B\$10000, A2, データ!C\$2:C\$10000)
- イ. SUMIF(データ!C\$2:C\$10000, A2, データ!D\$2:D\$10000)
- ウ. SUMIF(データ!D\$2:D\$10000, A2, データ!C\$2:C\$10000)
- エ. SUMIF(データ!E\$2:E\$10000, A2, データ!C\$2:C\$10000)

(4) の解答群

- ア. AVERAGEIF(データ!B\$2:B\$10000, A2, データ!C\$2:C\$10000)
- イ. AVERAGEIF(データ!C\$2:C\$10000, A2, データ!D\$2:D\$10000)
- ウ. AVERAGEIF(データ!D\$2:D\$10000, A2, データ!C\$2:C\$10000)
- エ. AVERAGEIF(データ!E\$2:E\$10000, A2, データ!C\$2:C\$10000)

(5) の解答群

- ア. ROUNDOWN(C2 / 分類!C2, 3)
- イ. ROUNDOWN(D2 / 分類!C2, 3)
- ウ. ROUNDOWN(分類!C2 / C2, 3)
- エ. ROUNDOWN(分類!C2 / D2, 3)

(6) の解答群

- ア. IF(E2<0.95, "×", IF(E2>1.05, "△", "○"))
- イ. IF(E2<0.95, "×", IF(E2<1.05, "△", "○"))
- ウ. IF(E2>1.05, "△", IF(E2>0.95, "×", "○"))
- エ. IF(E2<1.05, "△", IF(E2>0.95, "○", "×"))

<メモ欄>

<メモ欄>

